

農 業

1 学習指導及び学習評価の改善・充実

(1) 社会とのつながりを意識した探究的な学習の推進

学習指導要領においては、教科・科目等における理解をより深めることを目的とし、教科の内容項目に応じた課題に沿って、探究的な活動が取り入れられるべきと示されている。

農業科においては、従前から、実践的、探究的な学習である実験・実習や、課題を設定し、その解決に向けて主体的・計画的に取り組む「プロジェクト学習」を通じて、農業の充実を図る創造的、実践的な能力と態度を育成してきたところであるが、科学技術の進展、グローバル化、産業構造の変化等に伴い、必要とされる専門的な知識・技術も変化するとともに高度化しているため、これらへの対応が課題となっており、専門的な知識・技術の定着を図るとともに、多様な課題に対応できる問題解決能力を育成することが重要である。

各科目の指導に当たっては、農業に関する分野のあるべき姿を捉えながら、今日の農業の在り方や地域農業の実態、地域特有の農業などに対応して、実践的なプロジェクト学習や地域活動などを取り入れ、外部機関や地域農業界などとの連携を図りながら、地域の実態を把握し、今後の在り方を考察する学習活動を行うなど、社会とのつながりを意識した探究的な学習を推進する必要がある。

(2) 探究的な活動を取り入れた単元の評価の工夫

探究的な学習の中心となる「プロジェクト学習」は、生徒が課題意識をもって、主体的・計画的に農業学習に取り組むことができるよう、その意義やプロセス「①課題設定、②計画立案、③実施、④まとめ（反省・評価）」並びに実践について、各科目の内容に関連付けて取り扱うこととしている。特に、「課題研究」においては、専門的な知識と技術に関連付けるとともに、その深化・総合化を図ることとしている。

「プロジェクト学習」の指導と評価の一体化を図る上で、「農業の見方・考え方」を習得・活用・探究という学びの過程の中で働かせることを通じて、より質の高い深い学びにつなげることが重要である。

【農業の見方・考え方】

農業や農業関連産業に関する事象を、安定的な食料生産と環境保全及び資源活用等の視点で捉え、持続可能で創造的な農業や地域振興と関連付けること

そのため、探究的な活動における学習評価においては、日々の授業の中でワークシートの作成やレポートへのコメント記入、グループ協議の様子などの観察にICTを活用するなど、生徒の学習状況を適宜把握して指導の改善を行う「指導に生かす評価」が重要である。

なお、「記録に残す評価」は、単元や題材など内容や時間のまとまりごとに、それぞれの実現状況を把握できる段階で行うなど、その場면을精選して行い、年間を通じて3観点をバランスよく評価する必要がある。

2 指導と評価の計画例

(1) 科目「野菜」の計画例

ここでは科目「野菜」を取り上げて、「指導と評価の一体化」のための学習評価の実践事例、ICTを活用した「指導に生かす評価」の工夫について具体例を示す。

| | |
|------|--|
| 単元名 | 葉や花茎を利用する野菜の栽培（ブロッコリー） |
| 指導項目 | (1) 「野菜」とプロジェクト学習 (2) 野菜生産の役割と動向 (4) 野菜の栽培と管理・評価 (6) 野菜生産と経営の実践 |

指導項目の
(3)野菜の特性と栽培技術
(5)野菜の生産と経営
については、別の単元で学ぶ
ため、本計画例では除外して
いる。

ア 単元の目標

| | |
|-----|---|
| (7) | 野菜生産及び需給の動向や栽培と管理・評価、経営の実践について理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 |
| (4) | 野菜生産及び需給の動向や栽培と管理・評価、経営の実践に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する。 |
| (6) | 野菜生産及び需給の動向や栽培と管理・評価、経営の実践について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む。 |

イ 単元の評価規準

「ア 単元の目標」の文末を「～している」とすることで、おおむね作成できる。

| 知識・技術 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--|--|--|
| 野菜生産及び需給の動向や栽培と管理・評価、経営の実践について <u>理解している</u> とともに、関連する技術を <u>身に付けている</u> 。 | 野菜生産及び需給の動向や栽培と管理・評価、経営の実践に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて <u>創造的に解決している</u> 。 | 野菜生産及び需給の動向や栽培と管理・評価、経営の実践について自ら学び、主体的かつ協働的に <u>取り組もうとしている</u> 。 |

ウ 単元の指導と評価の計画（9時間）

○：指導に生かす評価 ◎：記録に残す評価

| 時間 | ねらい | 知 | 思 | 態 |
|--------------|---|---|---|---|
| 1～2 【2時間】 | ・作目や栽培上の特性について理解することができる。 | ○ | | |
| 3～4 【2時間】 | ・生産と流通・需給動向について理解することができる。 ・適切な経営の実践に関する課題について、見いだそうとしている。 | ○ | ○ | |
| 5～8 【4時間】 | ・実習について、主体的かつ協働的に取り組む。 | | | ◎ |
| 9 【1時間】 | ・単元全体について理解し、技術を身に付ける。 ・学習全体について課題を発見し、創造的に解決する。 | ◎ | ◎ | |

ブロッコリーは近年生産量が増加していることから、生産と社会情勢の関わりについて深く考えさせる。

エ 学習指導案（3～4時間目／9時間中）

| | | | |
|---------|---|--|--|
| 科目名 | 野菜 | | |
| 単元名 | 葉や花茎を利用する野菜の栽培（ブロッコリー） | | |
| 本時の目標 | ア ブロッコリーの生産・消費動向についての知識を深め、野菜の生産と社会情勢の関わりについて理解する。 イ 学んだ知識や現代の需給動向を踏まえ、適切な経営の実践に関する課題について見いだそうとしている。 | | |
| 本時の評価規準 | | 知識・技術 | 思考・判断・表現 |
| | A | ブロッコリー生産・消費動向について深く理解し、野菜の生産と社会情勢の関わりについて理解している。 | 前回と今回の授業の学びを踏まえ、生産量や消費量の増減の要因を考え、適切な作型・栽培体系による経営の実践に関する課題を見い |

| | | |
|---|---|--|
| | | だそうとしている。 |
| B | ブロッコリー生産・消費動向及び野菜の生産と社会情勢の関わりについて理解している。 | 学んだ知識や現代の需給動向を踏まえ、適切な経営の実践に関する課題を見いだそうとしている。 |
| C | ブロッコリー生産・消費動向及び野菜の生産と社会情勢の関わりについて理解していない。 | 需給動向から、生産について適切に考えることができない。 |

| 過程 | 主な学習活動 | 指示・説明及び指導上の留意点 | 【観点】 ■評価方法 |
|--------------|--|---|---|
| 導入 (10分) | <p>【問い】葉や花茎を利用する野菜の特性や北海道における作型について思い出そう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時の確認(栽培上の特性) 本時の目標及び学習内容の確認 | <ul style="list-style-type: none"> 前時の授業内容を振り返る。 ブロッコリーの植物学上の特性や作型などについて理解させる。 | <p>前時の授業を振り返り、本時の内容との関連について確認する。</p> |
| 展開 (65分) | <ul style="list-style-type: none"> 日本におけるブロッコリーの生産量の推移の確認 <p>【問い】日本におけるブロッコリーの生産量はどのように変化しているのか。また、その要因は何だろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本におけるブロッコリーの消費量の推移の確認 <p>【問い】日本におけるブロッコリーの消費量はどのように変化しているだろうか。また、その要因は何だろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ブロッコリーの消費に応じた生産体系について、経営的視点をもって考察 <p>【問い】消費に応える生産を考える上で、どのような作型を組み合わせるか。また、生産量を維持するためにどのような方法があるか。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ICT機器を活用し、調べながらワークシートに入力させる。 タブレット等で、各自調べながら表計算ソフトにまとめ、グラフ化する。 推移データを調べた後、グラフを作成し、考察させる。 個別学習において調査し、要因について自らの考えをまとめる。多くの情報から必要なものを選択し、ワークシートにまとめて記入させる。 推移データを調べた後、グラフを作成し、考察させる。 生産量や消費量の推移と、作型に関する知識を統合し、どのような生産体系を組むべきか考察させる。 個別学習において調査し、要因について自らの考えをまとめる。多くの情報から必要なものを選択し、ワークシートにまとめて記入させる。 具体的な作型や生産量維持の方法について、考察させる。 | <p>ブロッコリーの生産量について統計資料を併せて、その調べた結果となつたのか考える。(消費者の高まり、栽培が容易、輸入量の減少など)</p> <p>【思考・判断・表現】 ■行動観察</p> <p>生産量同様、消費量のデータをまとめた後、増加した要因について調べて、自分の考えをまとめる。(栄養価が高い、栽培しやすい、輸入が減少し加工原料としての消費が増えたなど)</p> <p>まとめたデータ、前回の栽培に関する特性の学習を統合し、本地域や自家農場において、どのような作型で、どのような品種を、どのような時期に栽培すると経営面でメリットがあるかなど考える。</p> |
| まとめ (25分) | <ul style="list-style-type: none"> 本時の振り返り 次回の予告 | <ul style="list-style-type: none"> 野菜の栽培には需給動向が大きく関連することや、生産については幅広い観点から判断することが重要であることを伝える。 個別学習での学びを全体で共有し、実際の消費動向、ニーズ等を理解させる。 | <p>【知識・技術】 【思考・判断・表現】 ■ワークシート【例1】</p> |

オ 授業改善につながる「指導に生かす評価」の工夫（評価時期、評価方法、評価結果のフィードバック）

(ア) 「思考・判断・表現」の評価

〔例1〕のワークシートは、次のことを目的としている。

- ・ 経営上の特性や、需給動向について学びを深め、本単元での授業内容も踏まえながら、野菜生産の役割と動向に関する課題を発見し、根拠に基づいて自ら考え、まとめる力を養うこと
- ・ 個別学習で自ら作成したグラフをもとに、その結果となった要因について、様々な学習形態で得た知識を統合し、主体的に考えることで答えを導き出しているかを記入内容から判断し、「指導に生かす評価」につなげること

【例1】ワークシート

問い 日本におけるブロッコリーの生産量はどのように変化しているのか。また、その要因は何だろうか。

(1) 日本における生産量の推移データを、各自で調べよう。

| | H19 | H20 | H21 | H22 | H23 | H24 | H25 | H26 | H27 |
|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 生産量 (t) | 125,000 | 136,900 | 141,100 | 129,200 | 130,200 | 137,500 | 137,000 | 145,600 | 150,900 |

表中のデータは、事前に数値データの情報元を伝え、自分で数値を入力させる。(農林水産省統計データ)

(2) 上記データをグラフにしよう。
(下記枠内に貼り付ける)

(3) この結果となった要因について、各自で考え、考えをまとめよう。

国内のブロッコリーの生産量が増加していることが分かった。作りやすいことから、私の地元でもブロッコリー畑が多くなってきている。グラフを見て納得できた。

評価は、下記(イ)参照

問い 日本におけるブロッコリーの消費量はどのように変化しているのか。また、その要因は何だろうか。

(1) 日本における消費量の推移データを、各自で調べよう。

| | H19 | H20 | H21 | H22 | H23 | H24 | H25 | H26 | H27 |
|---------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 一人当たり年間購入量(g) | 3,391 | 3,704 | 3,886 | 3,423 | 3,567 | 3,761 | 3,693 | 4,134 | 3,960 |

(2) 上記データをグラフにしよう。
(下記枠内に貼り付ける)

(3) この結果となった要因について、各自で考え、考えをまとめよう。

国内のブロッコリーの消費量が、少しずつ増加していることが分かった。栄養価が高いことが知られてきたからではないかと考えた。

* 学習で分かったこと

少しずつではあるが、生産量と消費量が増えていることが分かった。販売単価がどのように推移しているのか気になった。

(イ) 「思考・判断・表現」の指導に生かす評価例

評価A

国内のブロッコリーの生産量が増加していることが分かった。前の授業でタンパク質をはじめ栄養価が高いこと、栽培しやすいこともあり、消費側・生産者側両方にメリットがあるため、増加していると考える。

評価Aは、学習で学んだことに加え、増加した要因や経営の実践について、まとめられている。

評価B

国内のブロッコリーの生産量が増加していることが分かった。作りやすいことから、私の地元でもブロッコリー畑が多くなってきている。グラフを見て納得できた。

評価Bは、学んだ知識や現代の需給動向を踏まえ、適切な経営の実践に関する課題を見だしている。

評価C

国内のブロッコリーの生産量が増加していることが分かった。

評価Cは、本時で調べたことのみ記載されており、適切な経営の実践に関する課題について書かれていない。

評価Cと判断した生徒に対する手立て

発問により、前の時間に学習した内容を振り返らせ、本時の学びと関連しそうな点がないか自ら気付かせる。

* ワークシートの取組を早く終えた生徒への追加の課題の例

生徒の習熟度に応じて課題を与えることで、より深い学びにつなげることができる。

追加の課題

ブロッコリーは生産量・消費量ともに増加しているが・・・

| 年次 | ブロッコリー | アスパラガス |
|-----|--------|--------|
| H19 | 14300 | 5160 |
| H20 | 16600 | 5130 |
| H21 | 21100 | 5330 |
| H22 | 21400 | 5960 |
| H23 | 18900 | 5550 |
| H24 | 21300 | 4980 |
| H25 | 22600 | 5000 |
| H26 | 21800 | 4320 |
| H27 | 23100 | 4730 |
| H28 | 24300 | 4720 |
| H29 | 20400 | 4210 |
| H30 | 25000 | 3460 |
| R1 | 22800 | 3640 |
| R2 | 26700 | 3340 |

* 左の表は北海道におけるブロッコリーとアスパラガスの生産量の推移を示したものである。

問い ブロッコリーとアスパラガスの生産量に違いが生じている要因について調べ、次の語句を用いて記述しよう。 【語句】 流通、消費者ニーズ

問い 生産量が減少している野菜は、他にはあるだろうか。北海道を代表する作目を、今後のように考えていけばだろうか。

取組を早く終えた生徒に対する課題。生産量が伸びているブロッコリーと対比して、生産量が減少傾向にあるアスパラガスの今後の栽培について考えさせる。また、他の作目にも目を向け、生産が食品流通や消費者ニーズとも関連があることについて気付かせ、農業生産を様々な観点から捉えられるようにする。

(2) 科目「森林科学」の計画例

ここでは、科目「森林科学」における単元「樹木の特性」の指導と評価の計画例を示す。本単元における学習内容は、生徒全員に身に付けさせたい基礎的なものであり、「観察記録シート」を「指導に生かす評価」として活用している。

| | |
|------|----------------------|
| 単元名 | 樹木の特性 |
| 指導項目 | (2) 森林と樹木 イ 樹木の特性 |

ア 単元の目標

| | |
|-----|--------------------------------------|
| (ア) | 樹木の特性について理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 |
| (イ) | 樹木の特性に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する。 |
| (ウ) | 樹木の特性について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む。 |

イ 単元の評価規準

「ア 単元の目標」の文末を「～している」とすることで、おおむね作成できる。

| 知識・技術 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|-----------------------------------|--|------------------------------------|
| 樹木の特性について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 | 樹木の特性に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決している。 | 樹木の特性について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 |

ウ 単元の指導と評価の計画（10時間） 「○」指導に生かす評価 「◎」記録に残す評価

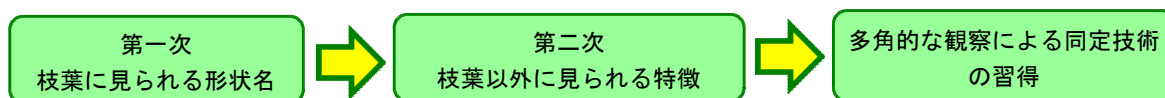
| 次 程 | 時 間 | 指導事項 | ねらい | 評価の観点 | | |
|---------|--------------|---------------------------------|--|-------|---|---|
| | | | | 知 | 思 | 態 |
| 第一 次 | 1～2 【2時間】 | ①木本類の定義と木本類の特徴 ②普通葉における各部名称 | ・木本類に見られる特徴、普通葉の各部名称及び形状の特徴を理解する。 ・普通葉における形状の特徴を観察し、形状名を答えることができる。 | ○ | | |
| | 3 【1時間】 | ①幹・枝における形状の名称 | ・葉・芽・枝の付き方の名称と形状の特徴を理解する。 | ○ | | |
| | 4 【1時間】 | ①枝葉の特徴の復習（実習） | ・枝葉の特徴について、自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む。 | | | ◎ |
| 第二 次 | 5～6 【2時間】 | ①樹形の特徴 ②根の種類 ③花・果実・種子の特徴 | ・樹形の特徴や根の種類などに関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する。 | | ○ | |
| | 7～8 【2時間】 | ①図鑑を用いた樹木名検索の方法（演習） 【例1】 | ・樹木に見られる各特徴を総合的に捉え、樹種を同定することができる。 【問い】外見的特徴が明瞭でない樹木はどのようにすれば種を同定できるか？ | ○ | | |
| 第三 次 | 9 【1時間】 | ①樹木の生産量 ②樹木の成長量の種類 | ・樹木の生産量や生長量の種類に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する。 | | ◎ | |
| | 10 【1時間】 | ①樹木の特性まとめ | ・樹木の特性について理解しているとともに、同定する技術を身に付ける。 ・樹木の特性に関する課題発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する。 | ◎ | ○ | |

評価の観点は、時間ごとに精選

時間的に余裕がある場合、携帯画像端末による画像検索を行わせ、自身と検索結果とを比較させること

エ 本事例における「指導に生かす評価」の進め方

(ア) 「例1」 「知識・技術」



第一次では最も特徴の現れる枝葉の形を形状名として捉えて検索する技術の習得を、第二次では樹形や季節によって異なる生殖器官の特徴といった検索の補助的要素となる特徴に関する知識の習得を目標としており、これらは最終的に樹木図鑑を用いて、自ら樹種を検索することができる技術の習得を目指している。

本時においては樹木全体を観察して、複数の特徴を捉え、多角的な視野から樹種の同定を行える技術の習得を目標とし、観察記録シートを用いながら、図鑑による樹木検索を行う。以下に評価の目安、評価例及び各評価における指導の手法について示す。

○評価の目安と例

| | |
|---------------|---|
| 観点 | 知識・技術：観察記録シート (図鑑を用いた樹木検索) |
| 評価 | |
| 十分満足できる (A) | 枝葉に見られる特徴とそれ以外の特徴から正しい同定ができています。 |
| おおむね満足できる (B) | 樹木に見られる各特徴を総合的に捉え、樹種を同定することができています。 |
| 努力を要する (C) | 樹木の特徴をほとんど見付けることができていない、もしくは見つけた特徴から樹種名を同定できていない。 |

○観察記録シートの評価例 (観察対象：ミズナラ)

- ・評価Aの例 ※ ()内は解答の正否を表示

| 観察記録シート | | | | |
|--|----------------|-----------------|-----------------|----------------------|
| ① 枝葉の 特徴 | 【葉の概形名】 | 【葉の先の形状名】 | 【葉の基部の形状名】 | 【葉縁の形状名】 |
| | 倒卵形 (○) | 鋭頭 (○) | くさび形 (○) | 鋸歯縁 (○) |
| | 【複葉の形態】 | 【葉序】 | 【分枝様式】 | 【樹形】 |
| | 単葉 (○) | 互生 (○) | 仮軸分枝 (○) | 単軸形と仮軸形の間 (○) |
| ②その他に見られる特徴 (花・樹皮など上記に欄の無いもの) | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・葉柄がとても短い、もしくはほとんどない (○) ・樹皮は淡灰褐色で縦に深い割れ目がある (○) ・7cm程度の長さの花序が見られる (○) | | | | |
| ③推定した樹種名 | | ミズナラ (○) | | |

【評価Aの理由】

- ①枝葉の特徴 (形状名) を正解できている。 (○)
- ②樹形、花序、樹皮といった枝葉以外の特徴も正解できている。 (○)
- ③樹種名を正解できている。 (○)

- ・評価Bの例

| 観察記録シート | | | | |
|--|-----------------|-----------------|-----------------|----------------|
| ① 枝葉の 特徴 | 【葉の概形名】 | 【葉の先の形状名】 | 【葉の基部の形状名】 | 【葉縁の形状名】 |
| | 倒卵形 (○) | 鋭頭 (○) | くさび形 (○) | 波状縁 (×) |
| | 【複葉の形態】 | 【葉序】 | 【分枝様式】 | 【樹形】 |
| | 掌状複葉 (×) | 対生 (×) | 無分枝 (×) | 仮軸形 (×) |
| ②その他に見られる特徴 (花・樹皮など上記に欄の無いもの) | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・葉柄がない (×) | | | | |
| ③推定した樹種名 | | ミズナラ (○) | | |

【評価Bの理由】

- ・枝葉の特徴 (形状名) を正解できている。 (○)
- ・枝葉以外の特徴を正解できていない。 (×)
- ・樹種名を正解できている。 (○)

- ・評価Cの例

| 観察記録シート | | | | |
|-------------------------------|----------------|----------------|------------|----------------|
| ① 枝葉の 特徴 | 【葉の概形名】 | 【葉の先の形状名】 | 【葉の基部の形状名】 | 【葉縁の形状名】 |
| | ひし形 (×) | | | 鋸歯縁 (○) |
| | 【複葉の形態】 | 【葉序】 | 【分枝様式】 | 【樹形】 |
| | | | | |
| ②その他に見られる特徴 (花・樹皮など上記に欄の無いもの) | | | | |
| | | | | |
| ③推定した樹種名 | | コブシ (×) | | |

【評価Cの理由】

- ・枝葉の特徴 (形状名) を一部正解できている。 (△)
- ・枝葉以外の特徴を正解できていない。 (×)
- ・樹種名を正解できていない。 (×)

【評価Cと判断した生徒に対する手立て】

特徴が現れやすい樹種を図鑑内から指定し、その樹木を探させ、なぜ同じものであると判断したかを質問し、特徴を捉える知識・技術の習得を促す。

Topic

実習等における安全管理及び衛生管理の徹底について

農業科では、これまでも実習等における安全管理及び衛生管理に努めてきたところであるが、改めて徹底すべき事項及び参考となる指導例を紹介する。

1 実習等における安全管理や衛生管理の指導體制

実験・実習を行うに当たっては、関連する法規等に従い、施設・設備や薬品等の安全管理に配慮し、学習環境を整えるとともに、次のような取組により、事故防止の指導を徹底し、安全と衛生に十分留意する必要がある。

指導に当たっては、教諭や実習助手自身が、そこに潜む危険を察知できるよう研修等を通じて指導力の向上を図る必要がある、その上で生徒自身が自ら危険を察知できるよう、各科目における実習のはじめに留意すべき点を確認した上で、実習を行う。

【安全管理及び衛生管理の指導例】

<年度始め>学科ごとに安全講習会（衛生講習会）を開催

（講話や危険予知トレーニングの実施、本校における前年度までのヒヤリ・ハットの共有など）

<年度後半>各科目におけるヒヤリ・ハット事例の共有

（科目で実施した内容を学科ごとに取りまとめるなど、次年度に生かす）

2 実習等における安全管理の推進

実習等を安全に実施するためには、事前に次の視点から検討を行い、担当教諭と実習助手が実習の進め方や安全面で留意することを共有しておくことが重要である。

機械・施設・用具・・・機械の整備・点検がされていること。

環境・・・機械等を使用する場所に危険がないこと。また、天候が作業に適していること。

作業方法・・・機械等の使用方法や作業の手順が示され、適切であること。

人的要因・・・寝不足や疲労の蓄積などがなく、体調がよいこと。安全面での指導がなされていること。

安全管理の指導に当たっては、GAPの取組も参考となる。岩見沢農業高校・帯広農業高校・旭川農業高校の3校では、平成30年度から令和2年度の3年間、「国際水準GAP教育推進プロジェクト」に取り組み、その成果として、「リスク管理」、「衛生管理」、「施設管理」、「圃場」、「作業手順」の項目に分類してウェブページに掲載しており、指導資料の作成に活用できる。



図1
北海道農業高校
学習成果集

| トップページ | GAP 指定校成果 | 指定校リンク | キ |
|----------------------------|-----------|--------|---|
| 各種マニュアルへのリンク | | | |
| 1 はじめに.pdf【岩見沢農業高校】 | | | |
| 2 リスク管理(改訂).pdf【岩見沢農業高校】 | | | |
| 3 衛生管理について(改訂).pdf【旭川農業高校】 | | | |
| 4 施設管理について(改訂).pdf【帯広農業高校】 | | | |
| 5 圃場について.pdf【帯広農業高校】 | | | |
| 6 作業手順について(改訂).pdf【旭川農業高校】 | | | |
| 7 審査を受けるにあたって.pdf【旭川農業高校】 | | | |
| 8 おわりに.pdf【岩見沢農業高校】 | | | |

図2 作成したマニュアルの項目

3 実習等における衛生管理の推進

平成30年の食品衛生法の改正により、令和3年6月1日から、原則として全ての食品等事業者に、衛生管理の実施が求められており、学校もHACCPに沿った衛生管理を実施する必要がある。

「衛生管理計画」や「手順書」を作成し、生徒に周知徹底するとともに、衛生管理の実施状況について記録・保存し、定期的に見直すことが事故防止にもつながる。

【学校が実施すること（農林水産省HPを基に修正）】

1 「衛生管理計画」の作成及び教職員や生徒への周知徹底

2 清掃・洗浄・消毒や食品の取扱い等の「手順書」の作成

3 衛生管理の実施状況の記録及び保存

4 「衛生管理計画」及び「手順書」の効果の定期的な検証及び見直し

Topic

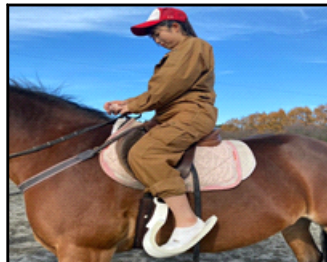
静内農業高校における地域と連携した取組について

令和3年度から令和5年度までの3年間、静内農業高校では文部科学省のマイスター・ハイスクール事業の研究指定を受け、専門高校と産業界、地方公共団体が一体となった最先端の職業人材育成システムの構築を進めている。ここでは、昨年度を取組内容及び連携のきっかけ、成果等について紹介する。

1 取組内容について

専門的知識・技能を有する職業人材を活用した講義や演習、実習を展開した主な取組と連携先は次のとおりである。本事業により配置されているマイスター・ハイスクールCEOや産業実務家教員、北海道経済連合会や新ひだか町商工会などの運営委員が、授業における企業等との連携のコーディネートを担っている。

| 学科（コース） | 令和4年度の主な取組 | 主な連携先 | コーディネート |
|------------------|--|--|-------------------------|
| 生産科学科 （園芸コース） | ・地域の園芸生産の特色や課題 ・GAPによる農産物の付加価値向上 ・新規就農 など | 農業改良普及センター 道総研（中央農試、花・野菜 技術センター）など | マイスター・ ハイスクール CEO |
| 生産科学科 （馬事コース） | ・競走馬の育成や利用と調教 ・繁殖牝馬の管理と栄養 ・乗馬療育 など | JBBA静内種馬場 JRA日高育成牧場 北里大学 など | 産業実務家教 員 |
| 食品科学科 | ・外部連携による新商品の開発 リコッタ、ゴーダチーズ、タルト、 レトルトカレー、焼き肉のタレなど | 南華園 ベル食品 雪印メグミルク など | 道経連、商工 会 |
| 全学科 | ・地域や農業の魅力発見と発信 ・ネット販売の実践 | 新ひだか町 ヤフー株式会社 など | 学校、新ひだ か町 |



2 成果について

(1) 生徒の意識の変容（全校生徒対象アンケートより）

| 項目 | R 3 始 | R 4 末 | 増減 |
|------------------------------------|-------|-------|--------|
| 地域に魅力を感じ、愛着をもった生徒 | 70.2% | 72.1% | +1.9P |
| 地域の課題を発見し、解決に向けて多面的・論理的に考え、行動できた生徒 | 51.7% | 67.5% | +15.8P |
| 将来、地域のために貢献したいと考え、行動できた生徒 | 36.5% | 53.7% | +17.2P |
| 様々な産業人との交流を通し、自身の進路について考えることができた生徒 | 47.2% | 76.2% | +29.0P |

(2) 教員の意識の変容（教員アンケートより）

- ・幅広い企業の視点を伝えることがいかに重要かが理解できるようになった。
- ・「地域を知ること、地域を支える企業を知ること、地域や企業を支えていく一員を育成すること」の観点で教育を考えることの大切さを、より一層自覚した。

(3) 地域や企業の意識（運営委員会における発言より）

- ・「地域で職に就きたい」「地域に残りたい」と思える環境作りを、産業界や行政が行っていく必要がある。
- ・企業と学校との連携は社会貢献につながるとともに、講師を引き受けることは社員教育の一環として考えることができる。

今年度、静内農業高校では、専門的知識・技能を有する職業人材による講義や実習等を事業終了後も継続できるよう教育課程へ位置付けることや、研究指定事業によってできたつながりを持続させるための産業界との連携の在り方について検討するなど、職業人材育成システムの構築に向けた取組を推進している。